

## 理事長挨拶

大鳥蘭三郎

富士川游先生が逝去されて五十年に相当するということで、本会が催された次第であります。

同先生は言うまでもなく、日本の医史学研究の第一人者であつて、私は先生の講義を、慶應義塾大学医学部の学生時代から、永く受けておりました。慶應義塾大学の医学部は開校以来医史学の講座を開いており、先生がその講義を永年受け持っておられたわけです。それゆゑ私は先生とおつきあひは一層深かったのであります。先生が逝去された御病気の発病時期は丁度慶應で講義された時代になりますので、私には先生の「死」のことが人一倍強く印象に残つたのであります。

先生が亡くなられて五十年ということはまことに早いようでもあり、又永いようでもあります。

願わくは在天の先生の霊が日本の今後の医史学の前途を見守つて下さることを祈念してやみません。一言御挨拶まで申し上げます。

平成二年十月

(日本医史学会理事長)